

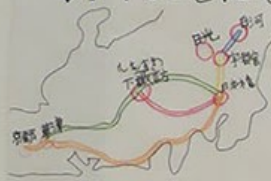
# 歴史大賞

## 安城市の旧東海道の松並木



調べようと思ったわけ 社会見学の浄水場に向かう時 4年1組17番  
 大きな松並木を通ったことを家で話したら、杉浦絢音  
 旧東海道の松並木だと教えてもらったけれど、どうして大きな松が続いているのか  
 調べることにしました。

### 調べたこと



**東海道の歴史** 1604年に徳川幕府は江戸からのびる5つの街道に木を  
 うえることを命じる。これが東海道の松並木の始まり。  
 以上も東海道を歩きかう人々を見守り続けてきました。 松並木は、400年

### 安城の近くにあつた宿場町

#### 五街道

- 東海道(とうかいどう)
- 中山道(なかせんどう)
- 日光街道(にっかうかいどう)
- 奥州街道(おうしゅうかいどう)
- 甲州街道(こうしゅうかいどう)

(西) 矢立 39番目の宿場 江戸の日本橋から330km 約10日かかる (東) 岡崎 38番目の宿場

池鯉鮒宿 矢立神社の池に鯉鮒が多くいたことが由来  
 きっとあの宿に入ればおいしい  
 川魚が食べられるとの思いで  
 この地を目指して元気に歩き  
 続けられるように付けられた  
 年に一度の馬市は、全国の馬が  
 400から500頭も集められた。

岡崎宿 徳川期では  
 日本最大の橋があつた。  
 矢作川にかかる橋は  
 370メートルで、東海道で  
 1番長い橋を大名行列が進む  
 遠くには岡崎城があり  
 たくさんの家がつらなつていて  
 にぎわつた町が分かる。  
 西三河地方の経済文化  
 交通の中心都市

うたがわひろし  
 歌川広重  
 東海道五十三次  
 東海道の宿駅を中心とした  
 景観や地いきの習慣をかいた浮世絵



馬をつなぐために松を  
 利用した。

また三河地方の  
 特産品であつた  
 もめん市も  
 開かれていた。

### 実際に行ってみた

**感想** 昔は、大名行列も  
 ここを通つた感じが想像できる  
 ふんいきが残っていました。  
 たくさんの大きな松が続き、  
 とてもはかがあつた。この辺りで  
 広重が絵にかいたものなとくでるほど、  
 きれいな松並木でした。



### なぜ?

松が続く理由を調べた

暑夏 → 旅人に木々が涼しい夏の日よけ

冬 → 雪や風をさげ、防寒になる

### 分かったこと

本州の東海岸にそつた道から東海道という名前がついた。  
 東海道にせちされた宿場の数は53宿。江戸と京都の間の490kmというきりには  
 どうしても食事どころ、休けい所、宿泊所が必要で、行き来する商人や旅人を受け入れた。  
 宿場ができたことで、人々は気がねなく遠出ができるようになり、江戸時代は旅行を  
 楽しむ人もふえた。スタート → 日本橋(東京都) ゴール → 三条大橋(京都府)  
 1日8時間歩くとして13日前後かかる。

愛知県には9つの宿場がある

- |              |              |              |               |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 33番 二川宿) 豊橋市 | 35番 御油宿) 豊川市 | 37番 藤川宿) 岡崎市 | 39番 池鯉鮒宿 矢立市  |
| 34番 吉田宿) 豊橋市 | 36番 赤坂宿) 豊川市 | 38番 岡崎宿) 岡崎市 | 40番 鳴海宿 名古屋市  |
|              |              |              | 41番 宮宿 名古屋市熱田 |

西側 今本町 = 東栄町 = 甲町 = 三丘町 = 宇豆百町 = 尾山崎町 = 植山崎町 東側



西側 今本町=東栄町=里町=洪屋町=宇豆頭町=尾山奇町=柿崎町 東側

東海道の松並木区間

見学



実際に行ってみた

このフロマツは木黄に幹が広がっている。枝張り東西17m・南北24m。松の開きが天にのぼろうとする竜のようで「雲竜の木」と言われている。天然記念物

熊野神社土の一角に一里塚あとの若ひ  
全国的に一里(約4km)の家をせつは。旅人はこれを目安にして旅をした。  
昔の方々の多くがここを通った。車が通らないのが大いかにいい。

安城市の今の東海道の松並木  
北側 62本  
南側 76本  
合計 138本

名鉄西尾線  
名鉄本線

新安城駅  
東栄町JA  
洪屋町ウエルシア  
宇豆頭茶屋  
尾山奇町  
柿崎町

大浜街道  
大浜茶屋  
大浜茶屋と宇豆頭茶屋の間にあった。今も地名として残っている。

江戸日本橋から83里

調べたこと

安城市にあった茶屋

東海道と交差する今の洪屋町  
宇豆頭茶屋

数軒の茶屋があって、大浜茶屋とよばれた。今も地名として残っている。

茶屋って何?

宿駅と宿駅の間に作られた茶屋を立場茶屋とよぶ。旅人が昼食をとったり、お茶を飲んだりした。



大浜茶屋について詳しく調べた。

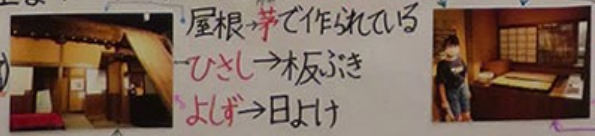
成り立ち

今の安城市洪屋町にあった大浜茶屋村は、碧南市大浜の港で陸揚げされた海産物を豊田市足助町を通して山間に「しお」を信州などの内陸部に運ぶ「しおの道」だった。

- ① 大浜街道は、碧南市大浜→高浜→安城市大浜茶屋で東海道と交差する→豊田市→長野県へ
- ② 東海道の岡崎宿と池魚里宿の間。

2つの街道が交わる大浜茶屋と宇豆頭茶屋のさかいには、1843年(天保14年)の大浜茶屋村の立場には、いり豆茶屋7軒、作間茶屋6軒あったことが分かった。

茶屋には名物が生まれて、大浜茶屋のそばぎ、今村のうづもち、甘酒まんじゅう、菓子人が人気だった。  
障子→ガラスがない時代の明りとり  
下地窓→明かりが入りやすいエ夫の窓  
そば切→今のそばのこ。ここでそばを作っていた。そば切の道具がならんでいた。



見学

土台の石がたたくならんでいる

松並木は400年もどのように守り続けられたのか。

せきしんい  
せいじんい



大浜茶屋について詳しく調べた。

成り立ち

今の安城市浜屋町にあった大浜茶屋村は碧南市大浜の港で陸揚げされた海産物を豊田市足助町を通して山間に「しお」を信州などの内陸部に運ぶ「しおの道」だった。

- ① 大浜街道は碧南市大浜→高浜→安城市大浜茶屋で東海道と交差する→豊田市→長野県へ
- ② 東海道の岡崎宿と池魚里宿の間。

2つの街道が交わる大浜茶屋と宇豆煎茶屋のさかいには、1843年(天保14年)の大浜茶屋村の立場には、いり豆茶屋、車干作間茶屋も車干あったことが分かった。

茶屋には名物が生まれて、大浜茶屋のそば(き)、今村のうづもち、甘酒、まんじゅう、菓子か人気だった。

復元された茶屋 (安城市歴史博物館)



屋根茅で作られている  
ひし→木反ぶき  
よび→日よけ



障子→ガラスがない時代の明りとり  
下地窓→明かりが入りやすい工夫の窓  
そば切→今のそばのここのこでそばを作っていた。そば切の道具がならんでいた。

見学

土台の石がたにさんぽらんでる

松並木は400年もどのように守り続けられたのか。

江戸時代初期、徳川家康が征夷大将軍になりその後全国的に整備されて、1番の責任者→幕府の道中奉行⇨各藩の大名⇨最後は地元の農民たち

・松並木の日常管理⇨地元の庄屋(町の代表者)

松公がかれたら新しい松公のなえをうえる。身分の高いが通る時⇨ほうきではいてそうじをする。

三河弁で松の落ち葉のことを「ご」と方言で言い、「ごをか」→松のそうじをおこなうこと

秋風がふいた後ごをひろう人によっていつも街道はそうじをされて竹製のくまでかいてごを集めた人は、大切なたき木の元になるから薪代がふくと喜んだ。戦後の家庭にガスコンロカイ使えるようになるまで、松並木が落とすごは、かまどや七輪に使う燃料としてべんやなものとして常に使われた。このように人々の暮らしと深い関わりをもっていた松並木

松並木のピンチ⇨太平洋戦争でもともと資源の少ない日本は戦局悪化で物資不足



航空用カリンの松公根油(しょうこんゆ)松の木にふくまれる「松やに」から燃料を作り出す方法が生み出され、たくさんの松が切られたり幹にキズを付けて

松やにをとった。国のために、戦争のために、たくさんとってみんなが協力した。

松やにに戦争中このキズがちめいしょうとなりあいついでたおれていく。



東海道は明治9年国道に指定されて、東京と京都を結ぶ日本の大動脈として利用されてきた。この道路はのちに国道1号線とよばれるようになった。戦後、国土をふこうに導くためにかつやくしたのはトラック。たくさんの物資をのせたトラックが国道1号線を行き来した。でも、道がせまくてトラック同士がすれちがえずじゅうたいしたため、うかいするために今の国道1号線に昭和26年ごろバイパスを作った。

調べ終えて分かったこと

- ① 私の住んでいる新安城駅の近くの、いつも交通量の多い国道1号線は東海道をもとにして作られているとても大切な道ということがわかりました。
- ② 松並木は、街道を歩く旅人の道しるべとなり、夏の日ざしをさける日かげをつくり風や雨から身を守ったり、旅人の休息の場にもなったことがわかりました。私も真夏に歩いて松並木が続くところは涼しく感じました。
- ③ 安城市に残っている松並木では、道の両がわに松が立ちならんで残っている場所もあって、地元の方たちが保存と手入れを大切にされてきて、矢口知らなかった名戸所があったり、松のみきにある深いキズは戦争のことを私にそと無言で教えくれたと感じました。松並木は昔の旅人のふんいきと風景を感じることできるすてきな場所戸所でした。町の大切なざいさんなのでおと残ってほしい景色です。